第９回　恵那南地区中学校再編委員会　会議録

・日時　平成２７年１２月２１日（月）　１９：３０～

・会場　岩村振興事務所　大会議室

・出席者　小中学校代表　春日井尚武、小板忠昭

こども園代表　千藤まゆみ

地域自治区代表　西尾公男、黄地尚幸、原田知典、阿部道長、堀眞人、安藤良一

川上貞夫、大島将官

中学校ＰＴＡ代表　松下雅昭、成瀬浩司、横光基

小学校ＰＴＡ代表　小川道義、加藤信之、渡邊大剛、川上渡、高井良三

こども園保護者会代表　小木曽耕司、川上翔

恵那南地区中学校あり方検討委員会委員　鈴木峰夫

総合計画審議会代表　西村貢

行財政改革審議会代表　柘植麻美

振興事務所長　西尾茂文、後藤光男、勝川甲子、熊谷浩

教育委員会　大畑雅幸

事務局　門野幸次朗、岡田庄二、土屋育代、安藤一博、西尾克子、梅村浩三

石田祐一、山田耕司、度會将仁

・欠席者

地域自治区代表　山本純、安藤仁志

地域自治区会長会議代表　樹神和昭

中学校ＰＴＡ代表　近藤祐司、伊藤昌治

こども園保護者会代表　森井清、成瀬一、伊藤寛隆、堀雄二

恵那南地区中学校あり方検討委員会委員　中垣貞好

振興事務所長　三宅勝彦

・委員会内容

１．開会挨拶　　　委員長、教育長

２．議事

委員長　：それでは、議事に入ります。

（1）学校統合の場所について、事務局より説明します。

事務局　：本日のグループ討議は、前回に引き続き学校統合の場所についての 4 番の統合エリア検討図から中心地の考え方、エリアについて、5 番の望ましい学校環境と既存校の利用について、議論していただき、前回、議論していただきました項目も

含めて、1から5番について地域ごとで発表をしていただきます。

委　員　：グループ討議に入る前に確認したい。今まで議論してきたが今はどういう段階なのか。あり方検討委員会の提言には、5校を1校にして新設が望ましいとあるが、新設とは新築を意味しているのか確認したい。

教育長　：新設とは新しい学校をつくるということ。昨年度のあり方委員会の提言は、新設になっているが、あり方委員会の委員のイメージは新築だと捉えている。恵那市の財政状況は大変厳しい。国からの交付金に頼っている状況で、合併特例債の終了したあとは新しいことはなかなか難しい。新設が約束されているわけではない。仮に既存の山岡中学校を利用しても校舎を1棟は増築しないといけない。以前、委員会で配布した資料は、今の生徒を既存校にバスで通学させると、通学バス１３台の１３路線必要になると試算したが、非常に難しい数字だと思う。車両と運転手の確保が難しいので、明知鉄道を活用し、駅から徒歩の範囲とすると半数以上の生徒はこれで解消できる。委員会の資料はそういうことを議論していただくため配付したものである。

グループ討議

①既存校を利用する場合の通学距離・時間の結果について

②通学距離・時間について

③通学方法について

④統合エリア検討図から中心地の考え方、エリアについて

⑤望ましい学校環境と既存校の利用について

委員長　：時間になりましたので、グループ討議を終了し、各地域から発表をお願いします。

明智地区：①明知鉄道を利用する場合は、明智が便利である。ダイヤは山岡、阿木駅の改修により便利になる。通学時間の短い生徒は既設校においても変わらない。通学時間の多くかかる串原、上矢作の生徒への協議をする必要がある。

②明知鉄道、スクールバス、自転車等を利用して通学するのがいいのではないか。現在西中は自転車で３０分以上通学している生徒がいるので、そのあたりを視野に入れる必要がある。通学時間は、概ね1時間、ただし今現在でも1時間以上かかる生徒がいるので、基本的には、1時間以上かからないような手立てを取る必要がある。

③明知鉄道、スクールバスを利用し、自転車通学も可能にする。

④基本は、新築であれば主要幹線道路の中心地でなおかつ明知鉄道の路線区内で

お互いに近い場所がよいのではないか。生徒が通いやすい状況をつくるには、両方が近接した位置が望ましい。

⑤既存校を利用する場合には、どの学校を利用しても概ね時間の差がない、改修費用が一番かからない明智中学校を考える必要がある。

岩村地区：①資料から通学距離の平均を考えると、山岡中学校（８．５キロ）、明智中学校（９．３キロ）であることから、既存校利用の場合には山岡中学校が適していると考える。通学距離が 20 キロ以上となる生徒数から考えると、山岡中学校とした場合（４０人）、明智中学校とした場合（５１人）となることから、遠距離の生徒も少なくスクールバスの台数を最小限とする観点から山岡中学校が適していると考える。

②文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」（P１６）の考え方に準じ、通学時間については１時間を一つの目安とすることが妥当と考える。恵那南地区は広範な地域であることから、１時間を超えてもやむを得ない場合があるが、その場合の通学方法にはスクールバスの運営方法などを最大限配慮する必要がある。

③明知鉄道を最大限に利用することを基本とすることで、スクールバスの台数を最小限に止め、財政負担にも配慮する。明知鉄道沿線の町内は、駅までは徒歩または自転車など自力での移動を基本とする。串原および上矢作は、主要幹線道路に設置するバス停までは、徒歩または自転車など自力での移動を基本とする。距離によっては家族による送迎の負担が発生する。歩道の整備が可能であれば、直接学校までの自転車通学も視野に入れる。明知鉄道降車後、駅から既存校までの徒歩移動時間を考えると、通学時間１時間を目安とすることが困難な生徒が多数出てくることが想定される。そのため、明知鉄道駅周辺に校舎を新築することで、通学時間１時間の目安を達成していくことが望ましい。

④実際にある交通網から導き出される距離・時間から中心地を考えることが重要だと考え、主要幹線道路上の中心地である山岡地区が適しているとの結論に至った。現在の恵那南地区全体で通学距離の一番遠い生徒は、串原・上矢作の生徒で２６キロ以上の距離があり、主要幹線道路を使用する場合は上矢作回りで来ることになり、主要幹線道路上の中心地では１時間を超えてしまうため、花白駅付近がエリアとして望ましい。資料「恵那南地区の人口の推移」平成３９年度予想の中学生の生徒数によると、岩村・上矢作の合計１２９名、明智・串原の合計１０２名となり、生徒数の多い地区の移動が少しでも少ない方が全体的な生徒への負担も減るため、山岡地内花白付近がエリアとして望ましい。

⑤望ましい学校環境としては、駐車場の確保、安全なバスロータリーの設置が必要である。既存校は、教室が狭い、体育館が狭い、改修中における工事の騒音問題など課題が多く、学校教育の充実を図る上でも新築を希望する。

上矢作地区：①明智では遠い、恵南全体を考えると山岡までは許容範囲である。

②上矢作はスクールバスが前提になる。バス停までの徒歩や自転車での時間も考えて設定する。上矢作は岩邑中が最も良いが、恵南全体と考えると山岡まではや

むを得ない。

③上矢作、串原はスクールバスが絶対になる。スクールバスの台数、バス停、路線をしっかり考える。その年ごとで生徒の地域がかわるので柔軟な対応が必要である。

④資料にある山岡の中心地が妥当ではないかと思う。

⑤望ましい教育環境に適合した既存校はないので、長寿命化が求められてくるので、新築した方が将来的にはよいのではないか。今は１校の話をしているが、２校が出来るのであれば、改修費も少なくてすむのではないかという意見が出た。上矢作は地域の人の意見をもっと聞いていろいろ話合っていきたい。

串原地区：①岩村地区と山岡地区の生徒が明知鉄道を使うなら、明智中学校の利用しかないのではないか。バスの路線を考えたとしても、明智になるのではないか。岩邑中学校もしくは山岡中学校を利用する場合、駅からの徒歩が大変になるのではないか。

②仮に７時４５分の部活動開始に間に合うようにしようとすると、６時３０分ぐらいにバスに乗らなければならなくなる。

・福原 6:30 発　→　明智まで 54 分　山岡まで 74 分

・閑羅瀬 6:45 発　→　明智まで 35 分　山岡まで 55 分

・中沢 6:46 発　→　明智まで 34 分　山岡まで 54 分

１時間以内は苦しい。

②バス路線（３系統）で考えると、６時１５分ぐらいに家を出なければならなくなってしまうため、山岡はきついのではないか。下校時刻を夕方５時３０分とすると、朝６時１５分に家を出て、夕方６時４５分に帰宅することになってしまうため、子どもにとって苦しくないか。とても望ましい学校環境とは言えない。

③路線バスの利用ではなく、スクールバス（ワゴン等小型のもの）で直送という形がよい。中沢の子たちも、明智の峰山へ入るバスに乗ることになると、時間がかかるようになってしまうので、これしか考えられない。

④距離的な中心位置は明智町東方となるが、生徒の居住分布による中心位置は山岡町上手向あたりになると考える。ただし、明知鉄道を利用する場合には山岡地区では新築しか考えられないため、串原としては既存校である明智中を利用することがよいと考える。

⑤保護者の総意に基づいていないため、あくまでも再編委員会に参加している者だけの仮の意見としてとらえていただきたいが、串原から１時間以内で通える場所は明智までとしか考えられない。市の財政から子どもたちの将来の負担を考えると、既存の明智中校舎を改造した方がよいと考える。明智であれば、岩村地区・

山岡地区も明知鉄道を利用できるため、理想と考える。

山岡地区：①どこの学校に通っても今の通学時間を短縮することはできない。平均的な通学時間は山岡中と明智中が妥当である。

②通学距離より通学時間を重視し、通学時間は概ね１時間以内が望ましい。

③スクールバスだけではなく、岩邑中、山岡中、明智中の生徒は大量輸送できる明知鉄道をメインに考える。山岡中の生徒は今でも自転車通学で１時間くらいかかる生徒がいる。自転車通学はスクールバスより生徒の負担は大きい。

④主要幹線道路上の中心地内の山岡駅から徒歩で可能な１㎞以内の範囲に新築が望ましい。

⑤既存校では立地的に山岡中学校が良いが、教室、グラウンドが狭いのでゆったりした環境で学ばせたい。全校生徒の入るランチルームは難しいため、多目的に使えるスペースがあると良い。

事務局　：議論していただいた内容については、事務局でまとめて次回の会議の資料とします。次回の会議は、１月１５日金曜日岩村振興事務所大会議室で開催します。

委　員　：先日の統合を考える会のアンケートは、賛成でも１校には疑問を持っている人を含めると反対が６割以上ある。説明会で保護者から教育委員会も住民も歩み寄っていくといいという意見が出た。事務局も１校の内容ばかりではなく、本当に１校でよいかという柔軟な考えで、状況を見極めて２校案も再浮上させるなど、軌道修正していくことも必要ではないか。文部科学省の手引き資料には、住民との丁寧な議論を行うことが必要という文書がある。今、丁寧な議論がされているのか。アンケートでも不安という意見がある中で、各地域の代表の方は住民の意見を取り上げているのか。

事務局　：意見を聞くことや、地域の方への説明は丁寧に行っていきたいと思っている。いつでも説明に行きます。この会は諮問を受けたことを話合うべきで、これからまだまだ時間がかかるので、これから丁寧に話し合っていけばいいのではないかと思う。

委　員　：地域の意見を聞く機会をつくってほしい。

事務局　：最後に総合計画審議会代表の西村委員と行財政改革審議会代表の柘植委員から好評をいただきます。

西村委員：前回、財政事情のことを話したが、前回の新設とは新築の意味合いで話したが、新築が駄目だということではない。新築をする場合に財政的にいくつかの条件がある。新築には自己資金が必要になる。学校建設するための積立預金が十分に行われていない。なおかつ、合併特例債という優遇措置があと３、４年で終わる。

建設には、設計、土地の造成、建築となり数年かかると、合併特例債の優遇措置の期間が過ぎると、通常の積立預金で賄うことになる。２０億、３０億円を借金するのは苦しい。それを回避するには節約となり、バス路線を減少させるなどの措置をとることになる。最初の条件を変更することになるのは身もふたもないと言いたかった。この委員会の原点は、中学校期の必要な教育、生きる力、学力をいかに伸ばしていくか。マンツーマンではなく、集団、社会性で競い合って育っていく環境を整える。それを支える教職員は、９科目１１種類の専門科目の免許を持った教職員が複数配置する。先輩の先生と若手の先生と複数いることで教え方の指導を受けられ、レベルアップもできる。研究もできる。そういう状況を整える。教職員、生徒も学力が伸びて成長するのではないか。そうするためには、複数学級ができる 400 人規模の生徒数が必要である。これが原点である。そこ立ち返ってぶれない考え方を持ってほしい。それを実現させるために新築がいいのか、増改築がいいのかは手段であり、節約を盛り込んでいくのか、お金の問題も念頭において置かなければいけないと前回は話をした。

委　員　：西村先生が言われたことは財政的なことは当然必要なことであるが、諮問にあった学校統合の時期と場所について議論をして、最終的な判断は議会で判断される。それに向けて基金の積立等をすると思うし、諮問をされたということは、市は覚悟をもっていると思うので、委員で協議していい学校を作ればいいと思う。

柘植委員：行財政改革審議会は恵那市全体を考えると、これから考えていくべき方向性は、ある物を有効に新築にしても作ったならばそれをいかに有効に使っていくか。大人が知恵を出し合って進めて行くという考えで市へ答申を提出した。こういう考えをベースにして行かなければいけないと思っている。

副委員長：ありがとうございました。

これをもって第９回恵那南地区中学校再編委員会を閉会します。

21：32 終了